

## ワングル奇想天外”「耕ちゃん」を悼んで

九州支部 加藤征治 (S41 文理学部)

我がワングル (WV) 同胞の岡田耕治氏 (S42 経済学部)、通称「耕ちゃん」が逝ってまもなく一回忌を迎えます。彼と同級の OB 部員秋山邦雄氏の記述 (「快男児岡田耕治君逝く」、OB 通信鳳翽復刻 27 号 P45、2021) にあるように、来る 11 月 10 日が命日です。例年秋に開催される OB 鳳翽会総会で、冥福を祈り訃報の連絡を頂いた同胞たちと献杯・涙酒といきたいのですが、新型コロナ感染禍というこのご時世ではそれもままならず、誠に残念です。

故「耕ちゃん」のことを大学 WV 現役同時代の仲間として振り返ると、どうしても忘れられないのは、WV 旧機関誌『あるきの記』3 号 (1967/3) にある“ワングル随想”『秩序』の中の彼の一文です。彼はここに組織と秩序について、サークルの現実・そのあり方を痛烈に批判しながら、それは自己の苦しきパラドックスと言いつつ、いろいろ述べています。若き青春の日々から、自己と管理・組織社会との葛藤を強く感じていたのでしょう。私事、WV 部では彼の 1 期先輩としての活動を振り返りますと、入学時 (1962) 創部された新生 WV 部の体育会加入・部活動内容のことや 3 年時の第三期執行部として部員構成や学部間 (本部・工学部・農学部) 交友・連携についての問題も多々あったことを思い出します。弱体とか、なんだかんだと悩みながら、それでも WV 創生期の活動から発展



図 1 何でそんなに楽しいの! (新人錬成合宿、東鳳翽山 → 桂木山、1964 初夏) (↖「耕ちゃん」)

して (図 1)、WV 部史上第一期黄金期 (第四期執行部) を迎えることが出来たことは感慨深いものでした。その主力メンバーの一人として「耕ちゃん」の奇想天外の活躍はとても懐かしいです。なお、上記『あるきの記』の彼の文中にある「ワングル

は高尚で難解なサークルだと思う!」の文言について、半世紀後の今の現役の若きワングル部員たちはどう思われるか、一度感想を聞きたいものです。

大学卒業後、数年して風の便りに、同じWV仲間の女性（旧姓田村さん）と結婚したことを知り、その意外性に最初は驚きながらも、なるほど良いペヤーカーも、「耕ちゃん」らしいと感心しました。その後は、お互いに現実の組織社会に紛れ込み葛藤の日々の中で、いつの間にか年月が経ってしまいました。再会したWVOB総会（関西支部開催、京都2005）では、秋の山科路・大文字山から下って、40年もの長い年月の疎遠を埋めるような他愛のない話の中で、銀閣寺から「哲学の道」歩きでした。そう、ちょうど南禅寺近くになって、突然彼は紅葉の散る道端に大の字になって、「加藤さん、湯豆腐喰いてエー！」の“やんちゃぶり”に、思わず学生時代に戻り皆と大笑いでした。今思えば、二人で脱走して喰っとけばよかったと、後年南禅寺詣での一人旅で思いました。また、再び京都



図2 WVOB会総会での指揮者二人の大宴会  
（関西支部主催、2009/10/3 京都いろは旅館）

でのOB総会（鞍馬・貴船、「いろは旅館」、2009、図2）でも逢いました。懇親会でのOB会員同士の積る話、その流れの集団二次会での懐かし笑い、と涙の酔眼朦朧の昔話は深夜まで続きました。その後逢ったのもやはりOB総会（2013）でした。近いところでは大津・琵琶湖湖畔の雨のOB総会（2017）であり、彼から「夫婦二人で健康のため琵琶湖を歩いている（”琵琶湖周遊”）」と聞きました。

先年、入退院の闘病生活から小康状態で無事退院したとかでかかってきた電話の声は嬉しそうでした。彼の昔ながらのその語り口が今はとても懐かしいです。昨暮、弔問拝礼の手紙に対する千代子夫人の丁寧な返礼の中に、「病室で、二人で“山の子の歌”を歌いました」と記されており、涙が止まりませんでした。

数年前、元気だった「耕ちゃん」から贈られた夫人手彫りの「表札」（図3）は、今や我が家宝の1つになっています。それを眺めながら、私も好きなこの歌“――山の子は山の子は、みんな強いぞ～”を歌って、故「耕ちゃん」の在りし日を偲び、ご冥福をお祈り致します。



図 3 「耕ちゃん」岡田夫妻から贈られ表札  
（“無から形を作るのが魅力”と活躍れる木工講師  
千代子夫人の創作）

合掌 2021 命日を前に

追記： 「つゆ遠き 露と消えにし 我が想い  
ワングルのことも 夢のまた夢」 （秀吉贗作）

整形外科・歩行障害のリハビリに暮れる昨今、秋の夜に 征治